

# 桜丘まちづくりニュース

N02 平成19年9月

—快適に住み続けられるまちづくり—

発行：NPO世田谷桜丘まちづくり



## NPO世田谷桜丘まちづくり第三回総会開催

平成19年5月28日、NPO法人としての第三回定期総会が開催されました。

平成18年度の事業報告と決算報告を始め、平成19年度事業計画と収支案が原案の通り承認されました。また、企画や事務所運営にご協力いただいている伊藤新彦氏、中澤節子氏、田中章恵氏の3名が理事として推薦され、承認されました。そのほか、会費と会員を明確にする必要性から会費の改正、コミュニティステーション事業の継続など5つの議案が全会一致で承認されました。

平成19年度の新たな事業として、地域のお年寄りなどへの支援事業として「桜丘助け合い隊」の発足、また、子供たちの育成事業としての駄菓子と物作りコーナー「おかしの森」の開設など行うことになりました。また、近年地球温暖化が進んでおりますが、地球環境の保全と世界の子供たちの命を救う事業として「ペットボトルキャップの回収」も行っております。まちづくりは、子供が安心して住み続けられる環境作りです。今後も当NPOは、より一層住みやすいまちにすべく活動していきますので、皆様のご協力をお願いします。

## 【平成19年度（9月以降）の主な催し物スケジュール】（都合により、変更等の場合もあります）

○10月7日（日）レディ・ゴールウェイ & 新井伴典コンサート

○10月13日（土）14日（日）稲荷森稲荷神社大祭

○10月6日（土）7日（日）宇山稲荷神社大祭

○10月20日（土）桜丘中学校・桜フェスティバル

○10月21日（日）第7回桜丘ウォーキングラリー

○11月10日（土）11日（日）桜丘区民センター祭り

○11月17日（土）9～11時 古着・古布回収〔桜丘小、笹原小、宇山神社にて〕

○12月8日（土）桜丘まちづくり音楽祭〔桜丘集会室にて〕



## ペットボトルキャップのリサイクル

今までごみとして焼却されていたペットボトルのキャップの回収を始めました。回収したキャップは、建材などに再生製品化されますので、家庭で出るキャップを集めて（洗ってから）、桜丘コミュニティステーションにお持ちください。キャップの焼却は、CO<sub>2</sub>の発生による地球温暖化を助長しますので、環境への貢献も小さくありません。キャップの売却益は、紛争の犠牲になった世界の子供たちの治療費やワクチン費用として全額寄付いたしますので、国際貢献にもなります。世界の子供たちをみんなの力で育てることになります。

## 「桜丘助け合い隊」の設立準備状況とアンケート結果（概要）

桜丘およびその周辺に居住され、高齢、障害などの理由で日常生活に不自由されている方々のお手伝いをするために「桜丘助け合い隊」の設立準備を進めています。5月に皆様からアンケートを募ったところ、80名の方から回答を頂戴し、計画推進にご賛同を頂きました。

同時に支援者として、すぐにでも役に立ちたいと申し出ていただいた方も15名おられます。

現在、設立に向けて、他のボランティアグループの活動状況の調査や、運営のための手順書、規約などを整えつつあるところで、素案が出来次第、参加者にお集まりいただき、具体的な相談をしてみたいと思っております。支援を期待しておられる方も多数おられますので、なるべく早く活動を開始するように努めてまいります。もうしばらくお待ちくださるようお願いいたします。

### 【アンケート結果の概要（回答者数：80名）】

1. ボランティア活動の必要性 「必要と思う」73名
2. ボランティアとしての参加 「すぐにでも参加したい」15名 「いずれ参加したい」25名
3. 「桜丘助け合い隊」利用の意向「直ぐにでも利用したい」13名 「いずれ利用したい」18名

## 【古布・古着の回収のお知らせ】

古布・古着の回収を行います。この夏もまた、世界各地で最高気温を更新し、熱中症による多くの犠牲者も出ています。北極の氷の減少も予想を30年上回る速さとのことです。益々温暖化の傾向にあります。私たちは、古着がごみとして捨てられ、焼却されて地球環境の汚染することを少しでも食い止めるべく、古着等の回収事業を行っておりますのでご協力お願い致します。また、当日の作業（トラックへの積み入れ等）をお手伝いいただける方も募集しておりますので、下記のいずれかの場所に直接お越しください。

＜日時＞ 11月17日(土) 9時～11時 雨天の場合 翌週24日(土)に順延

＜場所＞ ①笹原小学校 東門 桜丘5-19-1 (歩道橋のところ)

②宇山神社南側広場 桜丘4-14-18

③桜丘小学校〔南門〕 桜丘1-19-17

＜方法＞ 古着は洗濯し、東京都指定のごみ袋など透明又は半透明の袋(45ℓ以下)に入れてお持ち下さい。

**未使用・新品のものは、古布・古着とは袋を分けて下さい。**

＜目的＞ ①布資源のリサイクル(工業ぞうきん)や反毛(フェルト原料)に再資源化されます)

②未使用・新品はリユース(再利用)

③処分費用の節約(通常のごみとして区が処分する場合、キロ当たり55円の処分費用が必要とのことです。経費もさることながら、世界的に問題視されている地球温暖化を助長することになります。「不要になったものを必要としている人へ」このことが地球環境維持につながる。これが私たちの行っているリサイクル事業の目的です。)

＜問合せ先＞ NPO 世田谷桜丘まちづくり 03-3427-4181

**注意：学校および町会への問い合わせは出来ません。連絡は上記電話にお願いします。**

※家庭で不要になった品物でも、必要としているか阿多がおられます。npo事務所までお持ち願います。

### 駄菓子屋さんの名前 決定! 『おかしの森』

～毎週水曜日 午後1～5時 桜丘コミュニティ・ステーション内～

4月25日のオープンから約3ヶ月、お顔なじみも随分と増えました。毎回70～80人程来てくれます。

子ども達はコミュニティ・ステーション内に入って来るなり、「こんにちは!」、「また来たよ!」、「〇〇はないの〜?」、「この前と同じだ!」、「頼んだの、入った?」などと、挨拶や会話と笑いが飛び交い賑やかです。子ども達はよく見ているのです(苦笑)。駄菓子とゲームは初めて会う人との共通語、素敵な世界を運んでくれています。

ミーティングルームでは絵画の田中先生ご指導の下、絵手紙や折り紙などの見事な作品がたくさん生まれています。豆画伯達の誕生です!

七夕の短冊を作った時には飾り作りに夢中、季節に応じたこれらの作品は随時事務所の入口に飾っていますので是非見に来てください。このコーナーへの参加は無料(手ぶらでOK)です。あなただけの素敵な作品を一緒に作ってみませんか?

～ みんなで名づけた『おかしの森』へ・・・ようこそ ～

昔、子供だった方もぜひ参加してください。地域の子供たちをみんなで育てていきましょう。最近子供が巻き込まれる事件が多く報道されていますが、そのような子供たちにしたのは大人の責任であることを、私たちは認識する必要があります。おかしの森は、肉体的にも精神的にもバランスの取れた子供たちを地域ぐるみで育てようとしています。心の優しい子供を育てることは、何よりの介護保険といえるのではないのでしょうか?





レディ・ジニー・ゴールウエイ  
photo by Paul Cox

## レディ・ジニー・ゴールウエイ(フルート)・

## 新井伴典(ギター) & 嶽道優子(ソプラノ)コンサート

毎年、世界的な音楽家を招いてコンサートを開催していますが、今回も豪華な方々をお招きします。

レディ・ジニー・ゴールウエイさんは、国際的なフルート奏者で皇居や各国の宮殿でも演奏して絶賛を浴びています。新井伴典さんは、オーストリア国際ギターコンクールで1位になるなど数々の賞を得ています。そして、いつも桜丘まちづくり音楽祭にご協力いただいている世界的なソプラノの嶽道優子さんを招いてコンサートを開催します。

日時：平成19年10月7日(日) 午後6時半開演

場所：区立桜丘集会室(桜丘2丁目)

※座席整理券が必要になります。9月に入りましたらNPO事務所、区や町会の掲示板に掲示します。

## 桜丘ウォーキングラリーを開催します！(10月21日(日))

これまで毎回、多くの方々にご参加いただいております。今年で7回目になります。今回も地域内の商店や企業・団体などからのご協力をいただき、新たな発見ができるものにします。申し込み受付はまだ先ですが、是非ともご参加ください。また、企画・運営に参加していただける方も募集しています。「こんなものがあるよ」とか「こんな歴史があるよ」というものがありましたら、教えてください。



## 「桜丘のまちづくり活動を応援します」

### 東京土建組合 世田谷支部 けやき分会 (賛助会員)

私達は、建築業に携わる者達の集まりです。活動としては、仕事の安全・安定・適正化を、又、技術の向上を目指しています。活動の一環として、地域への貢献を目的に、「住宅デー」を年4回行っています。包丁砥ぎ、木工教室、住宅相談、耐震相談、バリアフリー相談などを行っています。

「桜丘まちづくり」とは数年前より協力体制を取らせていただき、春の桜樹公園の「まちづくりまつり」と、秋の「桜丘区民センターまつり」に参加させていただいております。特にこれからは、震災などの自然災害に対する防災活動を地域の人々、既存の関係諸機関と連携して行っていきたいと考えています。

「桜丘まちづくり」の活動の成果が多く上がらんことを願っています。



私は、本校校長2年目を迎えた井出一雄です。本年度、桜丘小学校は859名の元気で明るい児童、24学級、50名のすばらしい教職員でスタートしました。本校は、おかげさまで地域の皆様に支えられ今年で喜寿の77年目を迎えました。ますます地域に関われた学校を目指し、本年度は、次の6点を校長として取り組みます。①授業力の向上に努め、国語科の「書くこと」を中心とした指導改善に取り組みます。特に、学習したことを確実に書きまとめていく学び方の定着に努めます。②基本的な学習規律の徹底、話を聞く姿勢、読んだり書いたりするときの姿勢、拳手をしてしっかりと話すことなど、日常的で基礎的な学びのルールを確実な定着に努めます。③保護者・地域の方々との連携を図ります。ゲストティーチャーの招聘、多様な行事・体験学習への参加を計画・実施します。④桜丘小学校及び地域の教育環境を充実します。エコライフ活動や景観を大事にした教育の充実を図ります。⑤新教科「日本語」の学習に向けて、どの学年も円滑に推進していけるように努めます。⑥言葉を磨き、言葉で表現、コミュニケーション力の育成を図ります。暴力・暴言の根絶等、物的・人的言語環境の整備に努めます。



このような地域活動も行っていきます！ ～地域を守り、つながりを～

桜樹広場の清掃	千歳船橋駅周辺の掃除	ラジオ体操
桜の樹が大きく枝を広げ、気持ちの良い憩いの場であるこの広場は、そうあり続けるために人の手を待っています。掃除、草取り、花の植え付け。毎月15日と末日(各9:30~10:30)(日曜日に当たるときは翌日)に地域の方々で掃除など維持・管理を行っています。しかし、良い状態を維持するにはまだまだ人手が足りません。つきましては、この活動にご参加いただける方を広く募集しています。花の周りで一緒に人の輪を広げましょう。NPO 世田谷桜丘まちづくりまでご連絡をお待ちしています。	毎週土曜日(8:00~8:30)に地域の方々が行っています。この活動を始めて2年になりますが、開始当初に比べてゴミも相当に少なくなってきています。桜丘の玄関である駅周辺をいつもきれいにしようという我々住民が心掛けることで、気持ち良く日々を過ごし、ひいては地域で街を守っていく活動です(「汚い」と不満や文句を言うだけではきれいにはなりません)。当日、家を出てから駅までのゴミを拾いながら、駅周辺を一緒にお掃除しましょう!	気持ちいいですよ。毎日6:30から稲荷森稲荷神社でラジオ体操を行っています。ほぼ1年中(日曜日と1・2月はお休み)、ラジオに合わせて体を動かします。毎日、同じ時間に起きて家を出る、それだけでも一日が心地よく過ごせます。集まった方々と「おはようございます」の挨拶を交わして!

【桜丘コミュニティステーションご利用案内】

コミュニティステーションは、皆様がお気軽に利用いただける施設です。買い物帰りに休憩、会議、建築や増改築、税金、保険などの相談も行っています(相談は予約必要です)。また、リサイクルコーナーは多くの方に好評です。売上金は、全額上記でご案内しています行事の開催やコミュニティステーションの運営費に当てられます。ボランティアでお手伝いいただける方も募集しています。都合の良い時間で結構です。



桜丘の地名の由来

この地域は、以前は世田谷五丁目(※)でしたが、昭和41年(1966年)2月に新しく「桜丘」となりました。今から40年前の昭和42年(1967年)当時は、3,894世帯、人口は10,905人でしたので、現在は世帯数・人口ともおおよそ倍になっています。ところで、なぜ「桜丘」という名称を選んだのでしょうか? それは、この地域に以前からあった小学校の名前が「桜丘小学校」だったからです。元は上町にある桜小学校の分教場でしたが、昭和5年(1930年)に「第二桜小学校」としてスタートしました。そして、戦後直後に「第二」を外した上で、「桜丘小学校」に改めたのです。(※)西原公園に記念碑が建てられています。〔世田谷区編集『ふるさと世田谷を語る 第16集』より〕

一丁目	二丁目	三丁目	四丁目	五丁目	合計
1, 095世帯	1, 853世帯	1, 710世帯	1, 805世帯	1, 993世帯	8, 396世帯
2, 215人	3, 728人	3, 663人	3, 800人	3, 840人	17, 246人

桜丘の人口(平成19年7月1日現在)〔世田谷コールセンターご提供〕

家庭は家族の感情の容れ物、街は住む人たちの心の容れ物です。お互いに声の掛け合えるまちづくりを目指しています

発行者: 特定非営利活動法人 世田谷桜丘まちづくり  
世田谷区桜丘 2-20-10 TEL・FAX: 3427-4181  
E-Mail: [npo.sakuragaoka@diary.ocn.ne.jp](mailto:npo.sakuragaoka@diary.ocn.ne.jp)